

「地域の力で、まちを元気に！」

地縁と知縁で地域のセーフティネットを～

去る、2月16日(土)に千歳市民文化センターを会場に「ちとせ地域福祉フォーラム」を開催いたしました。今年度は「地域の力で、まちを元気に！～地縁と知縁で地域のセーフティネットを～」をテーマに、旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科の林芳治教授にご講演をいただきました。



林教授の講演の様子

～林教授の講演より(要旨)～

現代の高齢社会

日本で第1回目の国勢調査が行われた大正9年と現代のライフスタイルを比較すると、寿命が延びたこともあり定年後の期間や老親を扶養する期間が非常に長くなっており、老後の生活を考える際、10年以上の人生計画を立てることが必要となります。また、子どもが自立して親元を離れてしまうと、まとまった休みが取れないことや交通費が高いなど経済的な事情からなかなか会うことができなくなります。昔は年を取った親の面倒は子どもが見るのが当たり前でしたが、今ではそれができなくなっています。

「知縁」づくりの必要性

生活が便利になったことにより、多少のお金と健康があれば他人の世話にならなくても生活ができる時代となりました。家から出なくても買い物ができるようになりましたし、近所に子どもの面倒を見てもらうこともほとんどなくなりました。昔は黙っていても近所の方と知り合う機会があったのですが、今では同じ地域に住んでいても知り合う機会はほとんどなく、地域のつながりをつくるためには、わざわざ人と知り合うための「知縁」をつくっていかねばなりません。人と人との信頼関係やお互い様の気持ち、絆のある社会が災害時でも被害を少なくするように思います。

地域活動への参加

地域活動の担い手不足は全国共通の課題です。若い世代に地域や町内会活動を意識してもらうためには、地域行事の準備などでも若い世代が参加しやすい時間に合わせたり、あえて仕事を残しておき手伝いに来てもらうなどの工夫が必要となります。参加してもらうことで、地域の人同士が知り合うきっかけづくりにもなります。地域福祉は地道で息の長い活動であり、無理せず自分のできることを続けていくことで、「住んでいて良かった」と思われるまちにしていきたいと思います。